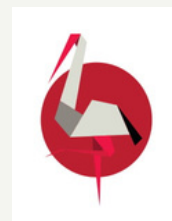


社会福祉法人 福田会 週次報告書

2022年10月11日 / Vol. 022



10月3日(月)～10月9日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援

冬服購入用商品券の贈呈

ウクライナ避難民支援関連施設の視察

アグニエシュカ・シチガイ社会統合大臣との面会



ご支援総額

2022年9月30日までの寄付総額 103,301,960 円

10月以降の寄付金は来週の週報でまとめてご報告させていただきます。
(担当者ポーランド視察のため)

ポーランドへの送金総額

9,000万円 (2894298.78 zł)

寄付金使用総額 2632384.48 zł (約7900万円)

9/19(月)～9/25(日)の期間中の寄附金使用額

668651.89 zł(約2006万円)

活動内容



支援所への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所へ週2回の支援物資の買い出し支援を実施。

カリタス支援所は3か月近く、2名のスタッフが毎日入れ替わりで支援所を運営している。

最近では、登録者への支援セットの配布となっており、支援が必要な人の選定等の取り組みがされている。



レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約730食を提供。

レストラン利用者の中には、利用者同士での面識も生まれ、社会とのつながりを維持する上でも重要な拠点となっているとの声も聞かれている。

食材支援

28家族に1週間分の昼食用食材を提供。

一人あたり50złの予算を設け必要な食材を各自購入してもらう形で実施。



毎週の買い出しを楽しみにしている方も多く、参加者の中には、スーパーの特売チラシを読み込み、買い出し日に備えている方もいる。



ウクライナ避難民支援関連施設の視察

福田会の東京本部より、太田理事長、土屋常務理事、支援担当者が視察を行なった。

クラクフ市の運営するシェルター、食材支援の視察の他、冬服購入用商品券の手渡しや、支援を受けている人との面会等も行われた。





アグニエシュカ・シチガイ社会統合大臣との面会

ウクライナ避難民のポーランドでの生活面を担当する大臣と面会。福田会の取り組みを報告し、政府の支援・今後の予定等をお聞きした。

現地の動向



冬が近づくにつれ、暖房機能が破壊されているウクライナ東部の村からの強制避難が始まっている。

そのため、村単位での避難要請が届くポーランドのボランティア団体もあるとのことで、短期の受け入れ施設の準備が進んでいる。

避難生活を送るウクライナ人からはクリスマスが近づくにつれて、大切な祝日をどう過ごすか、という心配の声があがっている。

支援する側にとっても、一般や団体からの寄付等が少なくなる中で、日本の皆様からの継続した支援はとても助かっているとの声が聞かれている。



写真は大田理事長、
土屋常務理事のクラクフ視察の様子